

Aーは、人の気持ちまでは察せない。だから最後は、選手の直観に委ねた

品川翔英中学校・高校 教諭・野球部監督
石田 寛 先生

Aー提案の練習案を参考に練習環境のハンデを克服

2023年7月、練習環境もままならない創部2年目の野球部が公式戦初勝利を掴んだ。白星に一役買ったのがChatGPTというから驚きだ。仕掛け人は、品川翔英高校（東京都私立）の情報科主任で、野球部監督を務める石田 寛先生だ。民間企業で働いていたが、少年野球チームの指導を手伝ううち、硬式野球部の監督をしたいという夢が膨らみ、転職を決意。定時制高校などに勤めたのち、共学化したばかりで野球部のない品川翔英高校が教員を募集していることを知り、応募した。

「実績のない人間が、いきなり監督になるのは難しいため、創部から関わろうと思ったんです。面接官には『校舎も建て替え中だし、野球ができる環境もないから創部は無理』と言わ

れましたが、最終面接でも、野球部をつくる話ばかりしていました」

晴れて採用された2021年4月、新入生を熱心にスカウトする石田先生の下に11人の一年生が集まり、野球同好会が発足。翌年、念願叶って正式な部へと昇格した。

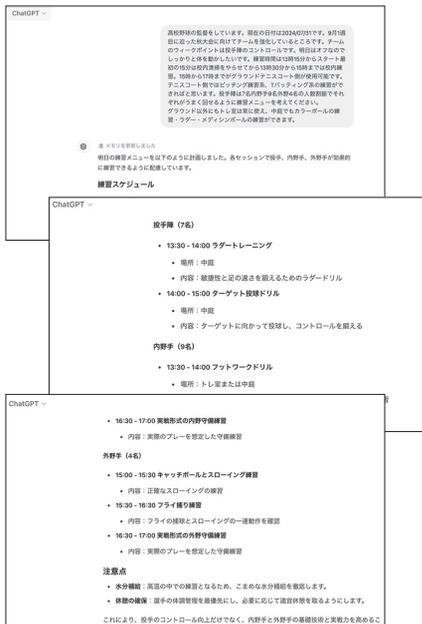
「けれど、創部初年度の夏の初戦は0対20と大敗してしまいました。それでも懸命に成長しようとする生徒を見て、自分も何か挑戦しなければという気持ちになりました。そこで授業でも使っていたChatGPTを活用することにしました。喫緊の課題は、限られたスペースで、いかに効率的に練習するか。工夫を尋ねたところ、驚くほど具体的な案が挙がってきました」

例えば、「グラウンド整備中のためノックをするスペースがないなか、フライを捕球する有効な練習方法はないですか？」という質問を端に、

「練習メニューを参考にしつつ最後は選手の直観に委ねる」ところが、翌2024年の夏の大会。たまたま前年と同じ組み合わせ



跳び箱の最上段とベニア板で作った“マウンド”で投球練習。(写真提供 / 石田先生)



ChatGPTが提案した練習メニュー案。実際には、この倍近くの回答が続く。(提供/石田先生)

Aーの提案を参考にしつつ最後は選手の直観に委ねる

その日の効率的な練習メニューを考えてほしいと質問すると、部員をいくつかのグループに分けたうえで、オーダーリングアップから実践練習までローテーションで回すメニューも提案してくれる(右下画像)。

そうした練習も功を奏し、冒頭で紹介した初勝利につながったのだ。

ところが、翌2024年の夏の大会。たまたま前年と同じ組み合わせ

となった相手に、今度はコールド負けを喫ってしまった。

「相手の先発は、昨年も対戦した素晴らしい投手で、彼さえ降るせば勝負になると考えていました。ChatGPTからも、『最初に球数を投げさせて後半勝負』というアドバイスがあり、選手ともそのように話していました。ところが打者が一巡しただけで『結構、打てるぞ』という声が上がって、初球から積極的に打ち

ていくよう作戦を変えたんです」

データよりも、生徒の感覚を信じ





PROFILE

いしだ・ひろし ● 1987年生まれ。大学で教員免許(商業科)を取得するも民間企業に就職。その後通信教育課程で情報科の免許を取得。定時制高校などを経て2021年に品川翔英高校赴任。現在、野球部監督、情報科主任。

たわけだ。結果は裏目に出たが、3年生にとって最後の大会。悔いなく戦えたことは良かったと感じている。もう一点、誤算だったのは、昨年度はベンチにいたためノーマークだった4番打者に、初回ツーランを打たれたこと。AIは過去のデータを基に分析するわけで、データ自体がなければ予測のしようがない。そうした限界を改めて知ることになった。

ChatGPTの活用が話題となり、外部から否定的な意見も聞こえてきたが、多くは監督が考えるべきことをAIに丸投げしているという誤解に基づいたものだ。だが、ChatGPTの提案をそのまま活用することはない。

「提示された練習メニューは、あくまでたたき台であり、最終的には、知識や経験を基に自分が決めますし、生徒から『こういうことをしたい』と言われたら臨機応変に対応します。それに、メニュー作りでは知人の意見や書籍、YouTubeなども参考にしています。そういう意味ではAIはあくまでツールの一つです」

石田先生は、野球部の指導以外でも、生成AIを取り入れている。

「中学生の総合的な学習の時間で

は、画像生成AIを使って紙芝居を作るなどの取組も学年全体でしています。頭で思い描いたイメージと実際のアウトプットが一致するとは限りません。こちらの意図を明確に伝える言語能力のほか、さまざまな力の育成につながると思っています」

同校は、校長自らAIの活用を推奨しており、石田先生は、文書の下書きやタスク管理にも使っている。

「ChatGPTを活用することで浮いた時間を、生徒指導に使うことができ非常に助かっています」

AIは、人と一緒に歩んでいくパートナー。AIの力をうまく引き出し、掛け算の関係になりたいと話す。一方で、今のAIにできないことは、相手の気持ちを察することだと石田先生。

「生徒の顔を見れば『今日は元気がない』『調子良さそうだな』と気づきますし、何気ない会話から、何を考え、何を悩んでいるか気づくこともあります。だからこそ、一人ひとりの会話を大切にし、日々、笑ったり、励ましたりしたいです。私が転職してまでしたかったのは、人間形成であり、人の成長に立ち会うことですから」

私がしたかったのは、人間形成であり、人の成長に立ち会うこと